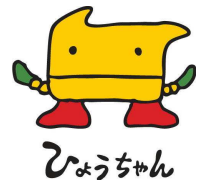


# 嬉 望

第 4 号

平成25年 6月 5日  
兵庫教育大学  
教職大学院  
学校経営コース  
大学院生編集部

「嬉望」は、本学加東キャンパスが嬉野台地区にあることと、「希望」とをかけた造語です。



ひょうちゃん  
大学マスコット

## 大学幹部インタビュー

### 第3回…井筒紳一郎 理事

本学の幹部に、教職大学院のあり方や、学校経営コースに対する考えなどをお伺いするシリーズも第3回になりました。

今回は、井筒紳一郎 理事です。

#### 井筒理事 プロフィール

\*昭和45年、兵庫県に採用  
\*昭和58年に副知事秘書に異動以後、企画参事付、知事秘書、審議員、首席審議員、長期ビジョン部長、部長（政策担当）、県民政策部長を歴任し、兵庫県の政策の企画立案・総合調整に携わる。

\*平成17年、兵庫県理事（産学連携・ビジョン担当）兼  
兵庫県立大学事務局長。

\*平成19年、（財）ひょうご震災記念21世紀研究機構副理事長・兵庫県参与（ビジョン担当）

\*平成22年、（公財）ひょうご震災記念21世紀研究機構理事兼相談役、兵庫教育大学理事（社会連携・広報）



※開学当時からのかかわり  
東播磨内陸学園都市構想のもと、坂井知事（当時）の強いリーダーシップで誘致が実現しました。当時を知っているものとして、再び兵庫教育大にかかわることになったことに感慨深いものがあります。

※県知事の姿を長期間にわたって見てこられました  
前貝原知事、現井戸知事の側で、長期総合計画や行財政改革などの企画立案、総合調整に携わりました。

そのときに心がけたことは、知事の考えを自分のものにしたうえで、どう形にするか、ということでした。この意識を持つことで、指示を受けたときに、素早く案をまとめることに役立ちました。

特に災害時などは、ある意味上司も部下もない緊急事態といえます。それまでの仕組みが機能しないと、即断即決が大切ですから、このことが非常に重要です。

※兵教大と地域とのかかわりについて

大学は、教育、研究機関であると同時に、社会に貢献する機関でなければなりません。本学では、地域への貢献として、北播磨5市1町との包括協定をはじめとして、多数の教育委員会や自治体と連携協定を結び、学校教育の振

興にとどまらず、地域の「人づくり」「まちづくり」施策に協力しています。

例えば、西脇市では「西脇発 ザ・学びの達人」という、小学生（5・6年）を対象にした、学生ボランティアとの触れ合いによる学びの場を提供しています。

また、兵庫県教育委員会との共同プログラムとして、ニューリーダー研修（現学校管理職・教育行政職特別研修、2ページ参照）を実施して10年になります。

※学校経営コースについて

学校経営についてはじっくり勉強する機会は、現場にはまずありません。2年間の学びは、非常にバラエティに富んでおり、最新の動向にも触れることが多いと思います。これらは、将来管理職になるにあたっての下地をつくる機会です。

学校経営コースの学生は、自ら目的意識を持ち、目の色が違うなど感じています。いろいろいと苦労されることはあると思いますが、自らの転機となる経験ですから、しっかりと学んで、子どもを伸ばしていく学校経営をリードする存在になっていただきたいと思っています。

## 学部生支援により 若手育成を学ぶ

（その2）

前号でもお伝えしたとおり、本学では現職教員による、学部生への授業支援の場が多く見られます。

学部の1年生を対象とした「教職原論」の授業もその一つで、教職の責務や役割、やりがいや難しさ等、教職の意義と特質について制度的、理論的、実践的な観点から理解を深めることを目的として設定されており、私たち学校経営コースの院生もこの授業に関わらせていただいています。

（2ページに続く）



(1ページから)

具体的には「学習指導」「学級経営」「生徒指導」「特別活動」の視点から、学校現場での実践を踏まえた実情や課題を伝え、学生の皆さんと意見の交流を図っています。

高校を卒業したばかりといつてもいい1年生ですが、教師という職業について真剣に向き合い、確固とした自らの理想や思いについて語る学生の姿に、我々現職教員が改めて気づかされ教えられることも少なくありません。若手の人材育成が大きな課題となつている昨今ながら、まずは若手の期待や信頼に応えられる指導力を私たち自身が身に付けることが先決であると、痛感させられる機会ともなりました。



## 学校管理職・教育行政職特別研修に 本コース2年生が参加しました

兵庫県教育委員会が実施している「学校管理職・教育行政職特別研修」に、学校経営コース2年生が参加しました。

この研修は、兵庫教育大学が、現職教員の研修を組織的に支援する活動として、兵庫県教育委員会(以下、県教委)と検討を重ね平成16年に開発したものです。

講義、演習および事例研究等を通して、学校経営専門職と教育行政専門職の力量育成を図ることを目的とし、今年度で10回目となります。

県教委では、5日間にわたるこの研修を、県内すべての公立学校新任教頭と県教委の指導主事等に対し義務づけており、兵庫県では、すでにほとんどの校長、教頭、指導主事がこの研修の受講経験者となっております。

また、この研修は、教育委員会と大学が共同企画・実施する管理職研修のカリキュラムモデルとして、全国から注目を浴びているものです。

## 学長による 特別講義を受講

5月13日、2年生専門科目「教育施策の立案と評価」において、加治佐学長の特別講義(180分)がありました。

「教育施策をいかに学校現場に浸透させるか」がテーマで、教育政策は、実施結果において所期の目的や趣旨がそのまま実現されていることは少なく、それは政策実施過程(現場)における自律性が高く、形骸化しやすいためであること、従つて政策評価は実施結果(アウトカム)にどれ



だけ反映されたかが重要であることが示されました。その後、教育政策を学校現場に浸透させるには、管理職としてどのような手を打つべきか、についてグループ討議、発表を行いました。

自らの将来を想定し、学校経営の視点で考える貴重な機会となりました。

教育改革が進む中、学校では、学校評価、説明責任、特色ある学校づくり等が、教育行政では地方分権のもと、特色ある教育施策や自主的な学校経営への支援が課題になっています。これらの課題に対応できる力量を養成し、学校経営・教育行政の改善に向けた識見を向上させるためのプログラムとなっています。

2年生は、県教委のご理解を得て、講義を中心に研修に参加しました。写真は、本コースの日渡教授による「教育改革と学校指導者に求められる力量」の講義風景です。



## 安藤准教授による フィールドワーク (宮崎県・鹿児島県)

安藤准教授と2年生5名が、自主・自律的な教育委員会のあり方をはじめとする様々な課題について学ぶために、宮崎県と鹿児島県の視察に行きました。

宮崎県五ヶ瀬町では、教育長や指導主事の方から、①五ヶ瀬で生まれ、育ち、五ヶ瀬を創造する人づくりというビジョンの実現に向けて、G授業をはじめとした取り組みを

している、②学校と地域が協働して教育に取り組んでいる、③「地域」があつて、「子ども」がいて「学校」があるという視点を持ち、学校教育が地域に貢献しようとしている、の3点を説明していただきました。

学校の将来を地域の人々と一緒に考え、子どもたちがよりよい教育を受けられるようにしていくことが私たちの使命であると改めて気づかされた研修になりました。

